美術館のお雛様展

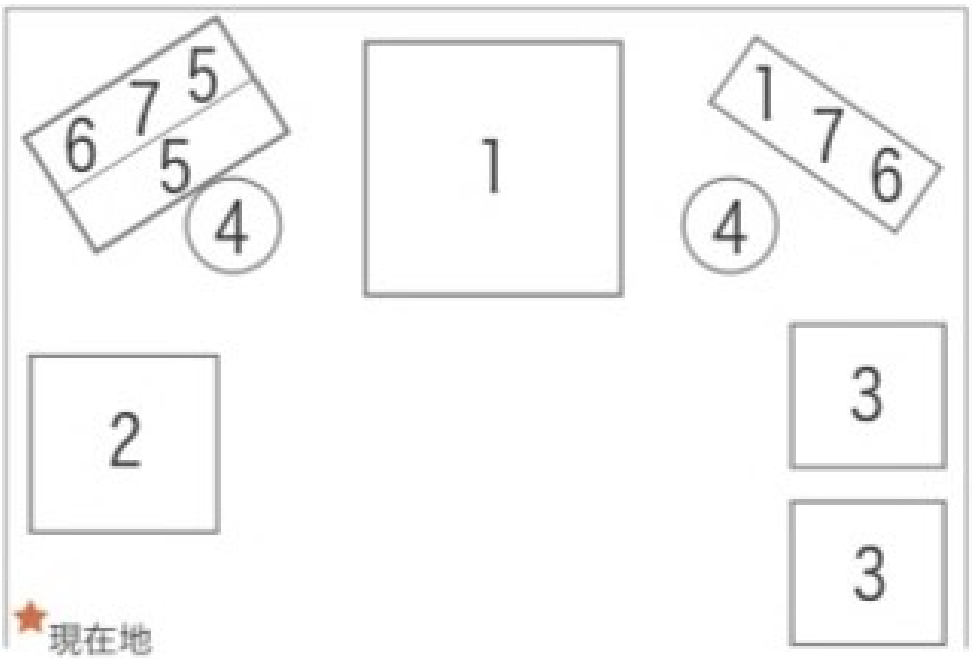
2021

会期　2月19日(金) – 4月6日(火)

お　雛　様

1	古今雛 (第2代 原舟月)	江戸後期	雛道具	江戸後期
2	古今雛	江戸後期	雛道具	江戸後期
3	小型の雛	大正～昭和期	雛道具	明治初期

4	庄内傘福	庄内傘福研究会 制作
5	扇面蒔絵貝桶	江戸中期
6	松竹宝尽蒔絵化粧道具揃	江戸中期
7	ぼんぼり	明治期



通　路

古今雛について

江戸時代の後半、明和（1764－1772）のころに作られ流行したお雛様です。
江戸上野 池之端の雛人形問屋の大槌屋半兵衛が、日本橋十軒店(じっけんだな)の人形師、原舟月に作らせ売り出したものです。
写実的な顔立ちで、目には硝子玉などをはめ込み精巧な作りになっています。
衣装は色糸や金糸などで刺繍をほどこし、煌びやかに仕上げました。

原 舟月

初代は大坂の堺出身で、江戸日本橋十軒店(中央区)に店を開きました。
内裏雛を改良し古今雛を考案しました。写実的で柔和な面立ちと、金糸や色糸を使った豪華な衣装が特徴です。
二代目は、神田 丸太河岸の材木問屋の次男として生まれ、13歳で初代舟月に入門しました。雛の表情が生き生きとしてより写実的になり、それまで京風を上としていたデザインから独立し、江戸の粋を特徴とする雛人形が様々に作られるようになりました。また、京都にも影響を与え、京風の雛も更に美しく改良が加えられていきました。
二代目の一人息子が三代目です。
明治･大正から現代の雛人形はこれらのあとを継いで発展しました。

庄内傘福

・世話人代表　酒田あいおい工藤美術館　工藤幸治さん
・制作者　　守屋順さん、村上弘子さん、新田由紀恵さん
　　渡辺千代子さん、工藤澄子さん

貴重な古布や草木染めのちりめんをふんだんに取り入れ、一年がかりで制作されました。